

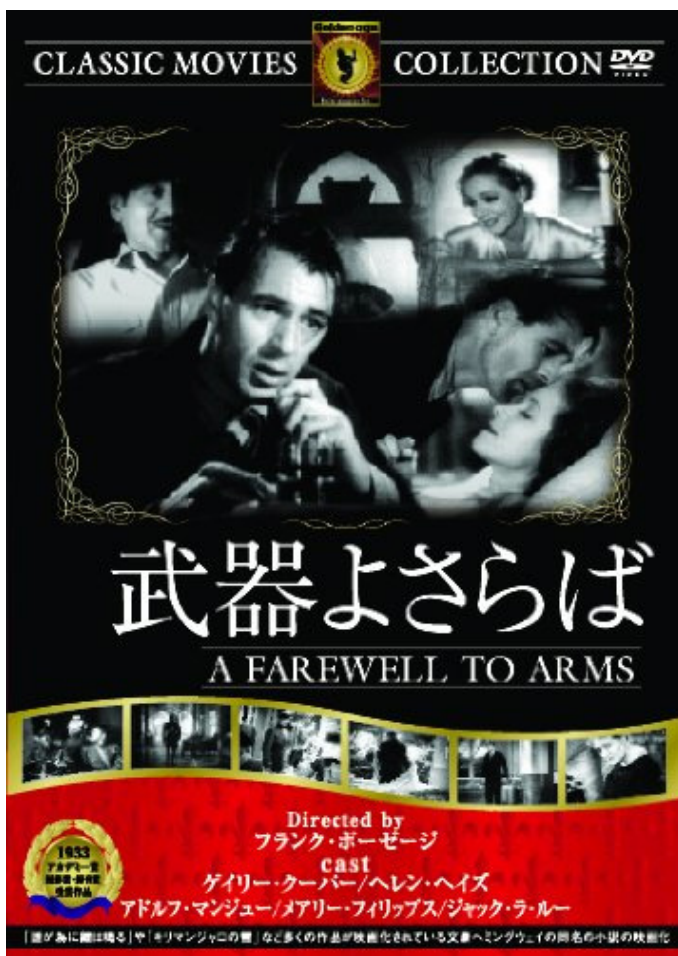
2014.12.18  
vol.35

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品

### 武器よさらば



12月18日(木)

① 10:30 ~ 11:50

② 14:00 ~ 15:20

反戦文学として名高いヘミングウェイ作品の映画化。原作の人間/社会ドラマ的側面を削り、焦点を“戦時下に咲いた愛の行方”に絞った、ロマンスの名匠ボーゼイジ監督の作品。

監督：フランク・ボーゼイジ  
原作：アーネスト・ヘミングウェイ  
出演：ゲイリー・クーパー  
ヘレン・ヘイズ  
アドルフ・マンジュー  
製作：1932年アメリカモノクロ  
上映時間：1時間20分

「シネマ・ド・リぶら」の  
キャラクター  
「しねまんくすきゃっと」です。  
どうぞ、よろしく！



サロン・ド・シネマ

場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。  
映画の上映前後にご利用ください。

# 映画を読む

## 『武器よさらば』

### “ゲーリー・クーパーとヘレン・ヘイズの綺麗な綺麗なロマンス”

今回の上映作品が日本で公開されたのは、日本が国際連盟からの脱退を表明した1933年のことです。すでに軍国主義のもとにあった日本では、この作品の原題『武器よさらば』は反戦的であるとして『戦場よさらば』と改題され、好ましくないシーンは削除されて公開されたそうです（ちなみに日本公開版の上映時間は80分、米国オリジナル版は89分です）。

約80年前に製作・公開されたこの作品は「シネマ・ド・リぶら」での上映作品中もっとも古く、私も今回上映にあたって下見するまで、ほとんど予備知識がありませんでした。皆さんも恐らく、ポーセイギ監督については、私同様あまりご存じない方が多いと思われるので、まずは彼についてのウィキペディアの記事を紹介します。

“彼の作品は1930年代には大変広く親しまれており、たとえ経営的に成功しなくても批評家の受けは良く、1940年代から1950年代終わりまでは高い評価を得ていた。代表作にアカデミー監督賞に輝いた『第七天国（1927年）』と『バッド・ガール（1931年）』をはじめ、『戦場よさらば（1932年）』、『歴史は夜作られる（1937年）』などがあり、いずれの作品にも共通するセンチメンタルでロマンティックなドラマ性がポーセイギの持ち味であった。……生前彼が監督した作品は100本を越える。ポーセイギが亡くなった後、多くの批評家は彼の作品を過去の遺物のように省みなかったが、最近少しずつ彼の作品はより若い観客によって再評価が始まっている。”

次にこの作品の内容です。原作が反戦文学として名高いヘミングウェイの小説ですから、皆さんそれなりの既存イメージをお持ちだと思いますが、ポーセイギ監督は、原作の社会ドラマ的側面をばっさり削り落とし、焦点を「第一次大戦のさなか、恋のために戦場を離脱した兵士と従軍看護婦の愛の行方」に絞ったラブ・ストーリーに仕立ててい

るので少し意外かもしれません。兵士には『モロッコ（1930）』で一躍世界中の人気を獲得し、後に『ヨーク軍曹（1941）』と『真昼の決闘（1952）』で二度のアカデミー主演男優賞を獲得したゲーリー・クーパー。看護婦役には、ブロードウェイの名女優であるとともに、映画界でも『マデロンの悲劇（1931）』で主演女優賞、『大空港（1970）』で助演女優賞と二度のアカデミー賞を受賞した（両受賞の間約40年！）ヘレン・ヘイズを起用しています。

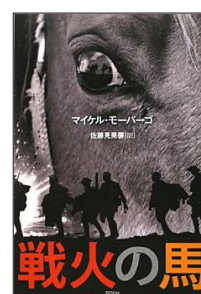
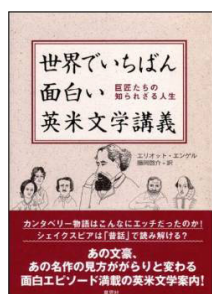
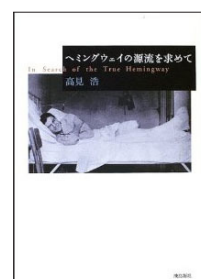
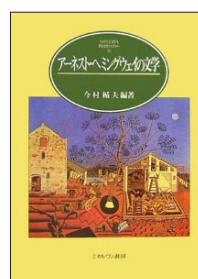
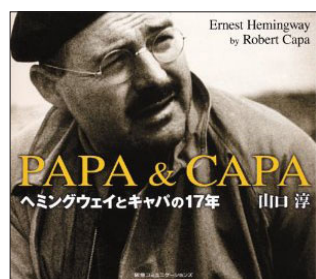
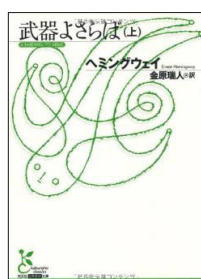
今にして振り返れば、監督と男女主役二人がすべてアカデミー賞複数回受賞者という、極めて豪華な顔ぶれの作品だったわけです。なお、この主役二人を含むキャストの起用から、全く主観的に私が強く感じたのは、この作品より2年前に公開されたスタンバーグ監督の『モロッコ（1930）』に対する、ポーセイギ監督の並々ならぬ対抗意識です。この二作品は安価なDVDが容易に入手できますから、同じ「戦時下のロマンス」をテーマとしながら、全く印象の異なる二作品の比較鑑賞も一興かもしれません。

今回もこの作品の周辺を調べて、沢山のトリビアを仕込みましたので、二つだけ追記します。

①淀川長治さんはポーセイギ監督が好きだったので、「世界クラシック名画選集」の解説で、この作品を「看護婦と兵隊のとっても清潔で綺麗な綺麗なロマンス」と高く評価しています。

②ヒロインを演じたヘレン・ヘイズは5歳で初舞台、9歳の時にブロードウェイに進出。以降“ブロードウェイのファースト・レディ”と称され、演劇界で愛され続けた。先述のアカデミー賞2回の他、トニー賞（演劇界）（3回）、エミー賞（テレビ業界）、グラミー賞（音楽業界）と各界の最高賞を総なめの偉大なエンターテイナーだったようです。『大空港（1970年）』では、密航常習犯のお茶目なおばあさんを演じて絶妙な味を見せています。93年に心臓麻痺で他界。享年92歳でした。

『武器よさらば』上・下	ヘミングウェイ	光文社	933.7
『武器よさらば』	ヘミングウェイ	新潮社	933.7
『PAPA&CAPA』ヘミングウェイとキャパの17年	山口 淳	阪急コミュニケーションズ	930.278
『ヘミングウェイの酒』	オキ シロー	河出書房新社	930.278
『ヘミングウェイとスペイン内戦の記憶』 もうひとつの作家像	船山 良一	彩流社	933.7
『アーネスト・ヘミングウェイの文学』	今村 橋夫	ミネルヴァ書房	930.278
『ヘミングウェイ』	島村 法夫	勉誠出版	930.278
『ヘミングウェイの源流を求めて』	高見 浩	飛鳥新社	930.278
『ヘミングウェイのジェンダー』 ヘミングウェイ・テキスト再読	N.R. カムリー	英宝社	930.278
『ヘミングウェイを横断する』 テクストの変貌	日本ヘミングウェイ協会	本の友社	930.278
『ヘミングウェイと同時代作家』	西尾 巖	鳳書房	930.278
『ヘミングウェイと家族の肖像』	マーサリーン・ヘミング ウェイ・サンフォード	旺史社	930.278
『アーネスト・ヘミングウェイ』 写真集	クラウディオ・イスキエル ド・フンシア	海風書房	930.278
『キューバのヘミングウェイ』	シロ・ビアンチ・ロス	海風書房	930.278
『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』	山下 昇	世界思想社	930.29
『世界でいちばん面白い英米文学講義』 巨匠たちの知られざる人生	エリオット・エンゲル	草思社	930.28
『酔いどれアメリカ文学』 アルコール文学文化論	森岡 裕一ほか	英宝社	930.29
『西部戦線異常なし』	レマルク	新潮社	943.7
『ジョニーは戦場へ行った』	ドルトン・トランボ	角川書店	933.7
『戦火の馬』	マイケル・モーパーゴ	評論社	933.7





# シネマ・ド・リぶら 次回上映会のご案内

vol.  
36

## 死刑台のエレベーター



1月15日(木)

① 10:30 ~ 12:05

② 14:00 ~ 15:35

フランスの名匠ルイ・マル監督のデビュー作。モダン・ジャズの帝王マイルス・ディヴィスの即興演奏、ジャンヌ・モローのクールな演技が素晴らしい。

監督：ルイ・マル  
原作：ノエル・カレフ  
音楽：マイルス・ディヴィス  
出演：ジャンヌ・モロー  
モーリス・ロネ  
製作：1957年フランス モノクロ  
上映時間：92分

### 『英国王のスピーチ』感想

- ・我家の息子も左利きを直し、吃音になり可哀想なことをしました。(母は)
- ・人の出会いの大切さを教えられた思いです。王の偉大さの裏に人間がある。
- ・何度見てもいい映画だ。二人の関係が明暗をくり返しながら堅固なものになっていく話の運びが素晴らしい。
- ・派手過ぎたりドラマチック過ぎず、心の病と障害をていねいに描いた良い作品でした。大変面白かったです!! あとチャーチル役の役者さんがインパクト大でした!!(^-^)
- ・心の深い所にしみる映画でした。心の病を治す参考にもなりました。史実であるだけに説得力がありました。
- ・DVDで観るよりもとても良かったです。

### 今後の上映予定(毎回木曜日)

- 2月19日 『フラガール』
- 4月16日 『ビバ! マリア』
- 5月21日 『誓いの休暇』
- 6月18日 『未完成交響楽』
- 8月6日 『遠い空の向こうに』
- 9月17日 『地下室のメロディー』
- 10月15日 『エデンの東』
- 12月17日 『群衆』
- 1月21日 『トップ・ハット』
- 2月18日 『雨の朝パリに死す』

※開催日および上映作品は、変更になる場合があります。

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター  
受付中! 年間: 1口 2,000円から

託児: 500円(各回6名まで)  
申込みは、1週間前までに  
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口: 戸松 090-6574-3312